

## 和歌山県・大阪府南部における飛散スギ花粉およびヒノキ科花粉の長期観測

○山西美映、奥野吉昭、上田和義、鈴木正伸、  
坂口幸作、加藤 寛、垣内 弘、藤木嘉明、嶽 良博、川堀眞一、  
井畑孝敏、吉内光夫、雪谷茂子、池田浩己、芝埜 彰、碓田猛真、榎本雅夫  
和歌山・泉南花粉研究会

各地で過去に観測された花粉数はスギ花粉の予測や予報に欠かせない。このような理由から、スギ花粉情報の普及に伴い、飛散花粉観測の重要性は益々増加しつつある。

演者らは、1985年12月に和歌山・泉南花粉研究会を県下や大阪府南部の代表的病院の臨床検査技師、耳鼻咽喉科開業医、勤務医らと共に組織し、年間を通して、空中飛散花粉の観測を始めてから21年が経過した。そこで、今回、スギ花粉とヒノキ科花粉を対象に過去の観測データのまとめを行った。

国保橋本市民病院(橋本市)、日本赤十字社和歌山医療センター(和歌山市)、国保日高総合病院(御坊市)、坂口耳鼻咽喉科(田辺市)、おくの耳鼻咽喉科(泉佐野市)、新宮市立医療センター、川堀耳鼻咽喉科(新宮市)に設置されたダラム型花粉採取器で観測されたデータを対象にした。その他の地点でも観測されていたが、観測データが散逸していたり、現在観測は中止されていて最近の観測データがないため、今回の報告からは除いた。

観測年により花粉数の変動が観察された。飛散数の多い年にはどの観測点でも飛散数が多かった。しかし、1992年は他の観測点での飛散数が少量であるにもかかわらず、田辺市では大量の飛散がみられた。全国的に大量飛散年であった1995年には和歌山県や大阪府泉南地方でも数多くのスギ花粉が飛散していた。1994年、1996年は少量飛散年であった。ヒノキ科花粉も、スギ花粉と同様に、年によって変動があり、スギ花粉の飛散が多い年にはどの観測地点でもヒノキ科花粉の飛散が多く、少量飛散年ではどの観測地点でも飛散数が少なかった。スギ花粉の初観測日は、多くの観測点では1月であったが、南に位置する田辺市や新宮市では前年の12月に飛散の開始する年もあった。花粉情報標準化委員会の基準に従うと、最も早い年では、田辺市や新宮市で、1月1日に初観測されていた。飛散開始日は多くの地点で2月の中旬からであったが、飛散花粉数の多い橋本市や南部に位置する新宮市では1月に飛散開始する年もあった。最大飛散日は3月中旬であったが南部に位置するところほどピークがより早く来る傾向にあった。飛散終了日は早い年は3月下旬であったが、多くは4月であった。また、観測地点により、飛散終了日が5月にずれ込む年もあった。一方、ヒノキ科花粉の初観測日、飛散開始日、最大飛散日、飛散終了日も、スギ花粉の飛散と同様に、南部に位置する観測場所で早い傾向にあった。これらの詳細と各地観測点における総飛散数の年次変動の詳細などを報告する予定である。